

令和7年度 東京情報大学総合研究所プロジェクト研究
研究実績報告書

1. 研究課題名

大学と大学周辺の地域住民の協働による災害対策の推進

2. 研究組織

区分	氏名	所属・職名
研究代表者	水野 芳子	看護学部 看護学科・教授
研究分担者	金子 仁子	看護学部 看護学科・教授
	小島 善和	看護学部 看護学科・教授
	岸田 るみ	看護学部 看護学科・助教
	芳賀 邦子	看護学部 看護学科・助教

3. 連携先団体等

団体名	担当部署
千葉市若葉区御成台三丁目自治会	自主防災会

4. 研究期間

2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

5. 研究の目的

地域住民が抱える災害対策への思いと課題を明らかにし、地域交流会が行う防災・減災に関わる活動の効果と今後の方向性を検討する

6. 研究報告

1) 地域交流会の開催

7/5 「避難所シミュレーションゲーム」実施

「避難所設営」をグループでシミュレーションするカードゲーム

地域住民 11 人参加、地区で以前に経験していた人もいた。参加者からは、難しかった、平時から訓練が必要、いろいろな意見が聞けた、避難所で自分の意思を表現できない人への対応策が必要、等の感想があった。

10/4 「千葉県西部防災センター見学バスツアー」

地域住民 23 名、学生 4 名、教員 5 名が参加した。センターのガイドの説明とともに体験した内容は、暴風、119 番通報、救急救護、消火器使用、煙避難等であった。防災用品や過去の災害に関する展示もあり、バスで往復できてよ

かった、他の地区の方や学生さんと交流できた、体験が多く勉強になった等の感想があった。

11/2 若葉区民祭での「旭市震災語り部講演会」「避難所設備（トイレ・ベッド）展示・体験」

旭市防災資料館管理人宮本氏の講演について、旭市の映像を初めてみた、千葉県も津波被害があったことを知らなかった、津波被害の後の困りごとなどがわかった等の感想があった。また、医療ボランティア部の活動や津波高さの展示と併せて、多くの来学者に、避難所ベッドやトイレの体験をしてもらうことができた。

12/6 「御成台三丁目地区防災対策」紹介

12名参加があり、若葉区や地域包括支援センター職員の参加もあった。御成台三丁目の自主防災会活動では、9年前から様々な実践をしており、今年度は当学学生も協力した。30分程の報告と参加者での意見交換を行った。地区の防災訓練は100人程参加があり、在宅避難が前提の訓練を行っている。避難所運営の方針の地区もあるが、対策は進んでいない。訓練が地域住民同士の関係づくりの場にもなっている。

2/7 「災害とICT」講演会

参加者の要望でテーマを設定、宮川祥子先生（慶応義塾大学医療看護学部准教授）に依頼し、オンライン講演とした。大学に11名、オンラインで1名、学生1名参加、講演の後参加者と意見交換を行った。参加者から、災害時の地域での情報伝達、ITの利用、避難所運営の課題などについて考えた、情報の手段を多様化しておく、臨機応変な行動が必要だと感じた、等の感想があった。

2) 参加者を対象とした質問紙調査の実施

① 方法

対象：2025年度地域交流会に参加した地域住民の方 33名

方法：郵送または手渡しによる自記式質問紙調査

内容：参加した地域交流会の内容と感想、地域の防災・減災

活動の実際、日常心がけている災害対策と感じていること、大学への要望・期待
本研究は東京情報大学倫理審査委員会の承認を得た

② 結果

対象者は17名（回収率 51.5%）、平均年齢 70.1才（47-81才）、交流会参加回数平均 1.7回（1-4回）だった。

各地区で行っている災害対策は、自主防災会の活動（定例会、防災だより、防災マニュアル、HP、情報共有、防災訓練（無事ですカード、避難訓練、救急訓練、AED、防災備蓄品紹介）等だった。

課題と考えることは、高齢者・要支援者の避難方法及び支援方法、新住民や町内会非会員への情報伝達、火事対応、家庭内備蓄、地区避難訓練の参加、などに関するものである。

大学に期待することとして、地域の横のつながりをつくる、情報発信（医療、IT 安否確認システム、マニュアル管理）被災状況の把握方法、研究成果、知識の普及、学生の災害支援、防災訓練への参加、避難所・休憩場所の設置、などであった。

大学周辺の地区で問題意識をもつ人、地域活動に積極的に関わる人が地域交流会に参加している。大学の立地は複数の地区に接しており、地区住民が大学との連携に期待している。

今後は、企画により自治体との連携も可能と思われる。また、共同のあり方として、周辺地区住民の情報交換の場の提供、防災活動に関する情報提供、学生や教職員による地域活動へのエンカレッジメントが効果的と考えられた。課題として、高齢者の参加が多いため、難聴者への対応、無理なく多くの地区住民の参加を促す企画の工夫の検討が必要である。

7. 成果の公表

2026 年 9 月千葉市幕張メッセ国際会議場において開催予定の、日本地域看護学会学術集会において発表予定である。

8. 総評

団体名 千葉市若葉区御成台三丁目自治会 部署 自主防災会

今年度の地域交流会には、自治会長及び自治会役員、自主防災会会長、メンバーの他住民の方が多く参加した。また、若葉区の他の地域や四街道市鷹の台等の自治会役員の方の参加もあり、情報交換ができた。講演会の開催や、意見交換、バスツアーなどの企画を大学が行うことで、自治活動や防災活動を推進する力になった。今後も地域交流会の継続を希望する。